

## 「秋田大学学生海外短期研修支援事業」実施報告書（参加学生）

平成 27 年 10 月 6 日

所属：教育文化学部国際言語文化課程 学年：4 年

氏名：佐藤 愛理

研修先大学・機関名等（国）：県立図書館 “ペトレ・ドゥルフ” 日本語・日本文化クラブ  
（ルーマニア）

在籍身分：ボランティア講師

渡航年月日：2015 年 9 月 7 日

帰国年月日：2015 年 9 月 23 日

### ○研修先での学習内容等

- ・ブカレストで行われた日本大使館、国際交流機構機関の日本語国際シンポジウムに参加、日本のランドセルにおけるジェンダーの変化について発表しました。
- ・ブカレストにあるルーマニア日本大使館を訪問。広報文化班である高松伸光さんとお会いして、大使館の活動などを聞きました。
- ・バヤ・マレ県立図書館日本文化クラブで 3 回、日本文化、習字、折り紙などの日本に関する伝統、文化を紹介し一緒に体験しました。

### ○研修期間の生活面について

生活面に対して、不満に思うことは一切ありませんでした。宿泊先、交通、食事すべての面で現地の方々がサポートしてくださいました。また、外出しているときは自分自身で手荷物をしっかり離さないようにしていました。

### ○研修期間全般にわたる感想

今回の研修で一番に私が感じたことは、ルーマニアの方々が日本の様々なことに興味を持ってくれているのに対して、私たちはもっとそれに向き合わなければならないということです。例えば、「日本の〇〇という本が好きです。」と言われても、私にはその本を読んだことがないから何も言葉を返せない、ということが何回かありました。自分は日本人である、ということに対して少しずつ考えさせられ、まだまだ自分の住んでいる国についてわかっていないことが多すぎると、実感しました。また、ルーマニアの日本に興味を持っている方々は本当に親切で、ルーマニアの文化、物の考え方についても話してくださいました。そのようにお互いの国のことを知るということは、自国を知ることと大きく繋がっていくのだと思いました。

### ○今後の勉強計画

実際にルーマニアという場所に行ったこと、体験したことを忘れずにルーマニアの歴史や社会構造についてもっと勉強していきたいと思いました。また、今一度自分が住んでいる日本の文化や政治、宗教に関してまだまだ何も私は分かっていないと今回の研修で思い知らされたので、学習していきたいです。